

厚生労働省 介護ロボット地域フォーラム事業
介護ロボット神奈川フォーラム2020

介護現場における導入事例紹介
「シルエット見守りセンサ」活用事例

令和3年1月12日（火）
社会福祉法人 清光会
特別養護老人ホーム新横浜さわやか苑
施設長 藤野 宏史

施設紹介

1. 法人名：社会福祉法人 清光会



2. 施設名：特別養護老人ホーム新横浜さわやか苑

3. 施設住所：横浜市港北区大豆戸町 5 7 2 - 5

4. 併設サービス：短期入所生活介護

5. 要介護度別利用者数：1 4 5 名（令和 2 年 1 1 月現在）

要介護 1：0 名

要介護 2：8 名

要介護 3：3 0 名

要介護 4：5 5 名

要介護 5：5 2 名

6. 従業員数：1 0 4 名



導入したロボット

シルエット見守りセンサ



導入したロボット

1. ロボット名：シルエット見守りセンサ
2. メーカー名：キング通信工業株式会社
3. 分野：見守り・コミュニケーション
4. 機能：
 - ・ベッドからの「起き上がり／はみ出し／離床」を区別し、正確に介護スタッフに知らせる
 - ・シルエット画像で利用者の動きが確認でき、プライバシーを保護しながら、転落などの事故防止に役立つ
 - ・履歴はセンサ本体のSDカードに保存され、施設内での情報共有やご家族への説明に役立つ
5. 導入方法：介護ロボット導入支援事業補助金を活用して購入
6. 導入台数：8台
7. 導入期間：令和2年2月～現在

導入の目的

業務改善 「事故防止・職員負担軽減・サービスの質向上」

①ベッドからの転落事故防止

→ ベッドからの転落事故が年間で数件発生していた

②認知症フロア担当職員の負担軽減

→ 度重なる巡回(夜間定期巡回11回 転倒高リスク者は+ α)
床対応者の離床・臥床介助時、腰部への負担が大きい
転倒高リスク者の見守り業務の精神的負担感、疲弊

③サービスの質向上(夜間帯の環境整備)

→ 職員の見守りを優先した環境(ベッド位置・照明)から
ご利用者希望等に配慮した居室環境の整備

導入に際する事前準備

導入まで1年のスパンで準備

- ①職員への施設方針説明と施設環境に適した機器の選定
 - ・ 職員への介護ロボット導入に関する施設方針の説明（目的）
 - ・ 展示会等での情報収集
 - ・ デモンストレーションの実施（複数企業の機器）

- ②ネットワーク環境の調査
 - ・ 適切な作動環境を確認するための調査（安定性・範囲）
デモンストレーション実施時に各企業に協力いただく

- ③ご家族説明
 - ・ シルエット見守りセンサ（記録）の使用同意書作成とご家族への説明

使用同意書

【御家族の皆様】

社会福祉法人清光会

〒105-8501 東京都港区新橋浜さわか苑

施設長 藤野 宏 史

シルエット見守りセンサ設置使用にかかる同意書

シルエット見守りセンサは、御利用者様の動きをシルエット動画で判別することによって、プライバシーに配慮しながらベッドからの落下などの危険予兆動作を検知し、安心に警報が送るシステムです。起き上がりからの一連動作を危険予兆動作とし、「起き上がり」「はみ出し」「離床」「立ち上がり」を検知し職員に通知します。

<製品の使用目的について>

- ・危険予兆動作を検知したときに画像を記録します。
- ・転倒、転落事故時には記録画像を確認し迅速かつ的確な処置に繋がります。
- ・検知した危険予兆動作記録画像から再発防止に繋がります。
- ・御家族様へは検知した記録をお見せすることが可能です。

<セキュリティ及び御配慮について>

- ・本製品はビデオカメラ等でなく、プライバシーが保護された画像を記録します。
- ・施設の外部へ記録画像の持ち出しは行いません。
- ・施設の外部からは記録画像等を見ることは出来ません。
- ・御利用者様の状況(睡眠、着替え、排便)に配慮し、訪室をすることが出来ます。

<御了承事項>

- ・本製品は御利用者様の危険状態を完全に防ぐことを保証することができません。
- ・検知通知を受けた場合でも職員の駆けつけをお約束するものではありません。
- ・当施設の判断で優先度の高い方へ使用を変更させて頂くことがあります。
- ・御利用者様、御家族様の許可なく設置、使用はしません。

上記内容について理解し、見守りセンサ設置及び使用について同意します。

年 月 日 署名 _____ 印

使用状況

1. 介護職員の人数：22名（導入フロア担当職員）
2. 対象ご利用者の人数：8名
3. 対象ご利用者の範囲：認知症フロアで夜間転倒リスクが高い方
4. 使用時間：夜間（入床19時ごろ～起床翌6時ごろまで）
5. 使用頻度：毎夜間帯
6. 使用方法：居室に設置



導入後の効果①

導入前：

A 介護職員：夜間帯を通じて五感を使い、気を張り詰めて見守りを行っていた。

転倒高リスク者は、すぐ駆けつけることができる位置で見守る必要があり、目が離せないこともあった。

利 用 者：（転倒リスクを減少させるために照明調整していたため、ご利用者希望の調光ではなかった）

導入後：

A 介護職員：検知音で知らせてくれるため、気持ちに余裕ができた。翌朝の疲労感に大きな違いを感じた。

他の業務を行う時間も確保できるようになった。

利 用 者：（好みの明るさで夜間帯を過ごすことができる）

導入後の効果②

導入前：

B介護職員：度重なる巡回の疲労に加え、見守りが必要な方が多く、優先順位を決めて見守ることが困難であった。
床対応が必要であり、離床・臥床の際、腰への負担が大きかった。

利用者：（職員訪室の際の足音、物音等により覚醒してしまうことがあった）

導入後：

B介護職員：巡回が減少し、肉体的・精神的な疲労が軽減した。
見守り必要者が一覧で確認できるため、わかりやすい。
床対応が必要だった方もベッドでの対応が可能となり、腰への負担が軽減している。

利用者：（物音が少なくなり、夜間の起きだしが減少している）

導入して良かった点

業務改善を現場が実感！

①転落事故の減少

- ・ ベッドからの転落事故 → 月 1 ～ 2 件から導入後、事故ゼロ
(令和 2 年 1 1 月現在まで)

②職員負担の軽減

- ・ 夜間平均25回程度（30分毎）の巡視 → 最少3回に減少
- ・ 床対応が必要な方もベッド臥床が可能になり、離床・臥床時の腰部への負担が軽減
- ・ ご利用者の夜間帯での覚醒、起きだしが減少

③サービスの質向上

- ・ 適した環境（調光等）での睡眠に加え、職員の訪室減少による睡眠の質（時間）の向上
- ・ 検知前後の映像記録による事故原因の究明、防止策検討、家族説明等への活用 → 現時点では事故ゼロのため活用機会なし

メーカーへの要望

介護現場との更なるマッチング

①設定の簡略化、利便性

- ・ 初期設定で標準的な対応が可能であるが、細かい設定において慣れが必要 → より簡略化が可能か？
- ・ 検知範囲設定時のボックスサイズや場所変更等の調整時に、スマホ操作で行うことができるようなスワイプ機能があると便利

②機器の小型化

- ・ 横21.7cm×縦11.6cm×奥行12.6cm
- ・ 現状、気にされる方は気になってしまうサイズ

③音声機能の搭載

- ・ 着信だけでなく、自動音声で「〇〇号室！起き上がり検知！」などお知らせがあれば、画面から目を離すことも可能
- ・ ナースコールのように必要時職員側から呼びかけることが可能になると、よりリスク回避につながるのでは？

まとめ

介護ロボット導入は「介護現場の革新」を促進する

- ①介護ロボットは業務改善のための重要なツールのひとつ
 - 業務改善（事故防止・職員負担軽減・サービスの質向上）
につながる機器の導入は、施設運営の課題解決に必要不可欠

- ②介護ロボット活用が生み出す付加価値を現場が実感すること
 - 補助金活用により、現場への導入促進を行うことができた
「介護現場の革新」を実感できる仕組み（助成等）は重要

- ③多様化する見守り機器の更なる品質向上と現場とのマッチング
 - 事故防止、再発防止、虐待抑止等様々な点で活用が可能
であるが、より現場にマッチする機器の品質向上に期待

ご清聴ありがとうございました！